

学級の実態に合った朝の会・帰りの会の活動プログラムを考えよう

プログラムのねらい

- 朝の会は「家庭生活から学校生活へと気持ちを切り替え、一日の見通しを持つ」、帰りの会は「一日を振り返り、明日以降のめあてや希望を持つ」という意義を児童生徒とともに再確認する。
- 児童生徒が学級全員でプログラムの作成に関わることで、一人一人の意見を大切にす経験を積み重ねる。

児童生徒の発達を「ささえる」ポイント

- ①-2 児童生徒の意見・要望・疑問に耳を傾ける。
- ①-6 短学活の活動プログラムを、児童生徒とともに検討する。

指導プログラムの進め方

担任の思い

- 短学活を行う目的を再確認したい。
- 児童生徒の実態に応じて活動プログラムを工夫したい。
- 伸ばしたい資質・能力に合わせて活動プログラムを設定したい。



学級の実態把握

- 学級の児童生徒にアンケートを行う。
 - ・学級の課題
 - ・活動プログラムの募集
- アンケート結果を踏まえて、担任+学級委員+班長で学級の伸ばしたい力を明確にする。



朝の会・帰りの会の活動プログラム作成

- 学級の課題や、学級で伸ばしていきたい力と、取り入れたい活動プログラムについて話し合う。
 - 【例】
 - ・コミュニケーションを特定の人同士でしかとっていない → コミュニケーションをとる活動プログラムの提案。
 - ・ゴミがよく落ちていいる → 「一日一善宣言」のように、社会のために活動することを促すような活動プログラムの提案。
- 新しいプログラムを導入する理由を、児童生徒が提案する。

児童生徒や学級の実態、発達段階に応じて、工夫して活用してください。

朝の会の工夫例 ①

クラスの目標・私のミッション

活動のねらい

- 課題を自分事として捉える意識を高める。
- 集団で設定した目標を自分の実践につなげる。

- (1)「今日の目標」を設定する。(日直や生活係など)
- (2)その目標達成のための自分のミッションを設定する。(20秒)
- (3)生活班でミッションを確認し合う。(30秒)

朝の会の工夫例 ②

一日一善宣言

活動のねらい

- 「集団のために自分は〇〇する」という社会参画の意識を高める。

- (1)日直が学級のために頑張ることを宣言する。(ミニホワイトボードに貼り、帰りの会まで掲示しておく)
- (2)帰りの会で、日直は自分の行動を振り返り、頑張れた点と改善点について発表する。
- (3)日直の発表に対して学級のメンバー全員で大きな拍手で頑張りを認める。

ペアトーク

活動のねらい

- ・児童生徒が安心して意見を述べたり、話し合ったりすることができると感じる学級の雰囲気をつくる。
- ・「仲間同士で褒める・認める言葉集」を活用し、褒めたり認めたりする際のポイントを身に付ける。

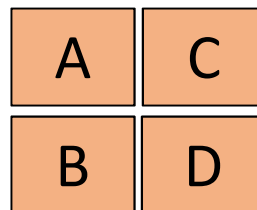
【テーマについて30秒ずつペアトークをする】

※テーマは教員が準備。最初は「好きな〇〇」など、話しやすいテーマから始める。慣れてきたら「嫌いな〇〇」「気になるニュース」「休日何してた」などバリエーションを増やしていく。

※教員の「最初はグー」の声でじゃんけんし、勝った方から30秒話し始める。ただし、聞き手は相づちを打ったり、「例えば?」「どうして?」「他にはなにかある?」「もっと詳しく教えて」など、相手が話しやすいように聞き上手になって相手の話を引き出す工夫をするよう事前に指導する。

※ペアは3パターン。

- 例1 AとC、BとDのような横のペア
 例2 AとB、CとDのような縦のペア
 例3 AとD、CとBのような斜めのペア



【トークテーマ例】

①自由形

- ・好きな〇〇
- ・苦手な〇〇
- ・気になるニュース
- ・休日の過ごし方
- ・夏と言えば
- ・最近のマイブーム
- ・次生まれ変わるなら
- ・行ってみたい国

②二者択一

- ・夏か冬のどちらが好きか
- ・住むなら都会か田舎か
- ・飼うなら猫か犬か
- ・住むなら暑い国か寒い国か
- ・たい焼きは頭から食べるかしっぽから食べるか

【ポイント】

- ①楽しい雰囲気、話してみたい!と思えるようなトークテーマを設定することがポイントです。
- ②聞く側のルール指導が大切です。「否定しない」「興味を示す」「質問をする」ことで聞き上手に。

今日のMVP

活動のねらい

- ・児童生徒同士で仲間を褒めたり、認めたりする際のポイントを身に付ける。
- ・自己有用感、自己肯定感を高める。

- (1)生活班で今日のMVPを話し合い、名前と理由をミニホワイトボードに記入し（複数名あげてもOK）、書き終わったら班の代表者がミニホワイトボードを持って起立する。
- (2)代表者が全員起立したら、班ごとに発表してMVPに拍手を送る。
- (3)「さようなら」をしたら、ミニホワイトボードを黒板に貼り、次の日の朝の会まで掲示しておく。

※MVPに選ばれた児童生徒の自己有用感の高まりや、選ばれていない児童生徒の今後の動機付けにつなげる。

【ポイント】

- ・学級通信等でMVP受賞者の周知を行うことで、親子のコミュニケーションを増やす一助とすることができる。
- ・ミニホワイトボードを見た担任以外の先生方から、褒められる、認められるチャンスになる。
- ・特定の児童生徒にMVPが偏ることが予想される。学級委員や班長を呼んで話し合いをし、「どのようにすれば、偏りが少なくなるか」「広い視野でみんなのよさを認められるようになるためにどうするか」を考えさせるなどの工夫が必要になる。

先生方へ

- ・朝の会は「家庭生活から学校生活へと気持ちを切り替え、一日の見通しを持つための時間」、帰りの会は「一日を振り返り、明日以降へのめあてや希望を持つための時間」という本質を押さえながら実践することが何より大切です。
- ・児童生徒や学級の実態に合わせ、形骸化しないようプログラムを工夫したいものです。
- ・児童生徒は放課後は早く帰りたい、部活動に行きたい、遊びたいと思っています。その気持ちもくんであげながら意味のある朝の会・帰りの会にしていきましょう。